

令和7年度

# 運営に関する計画

～最終評価～

大阪市立東淡路小学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題****【安全・安心な教育の推進】**

昨年度当初から「いじめ」は絶対にいけないことを伝え、折々に考えさせてきたこと、また「いいことみつけ」のような仲間づくりにつながる活動を継続してきたことが少し成果として現れた。不登校については担任だけではなく学校の問題として、また子どもサポートネット、区役所各担当等と連携して取り組んでいる。保護者や家庭全体へのサポートが必要なケースもあり、慎重を要するケースもある。「人の役に立つ」については、昨年度は「人に親切にする」という子どもにわかりやすいことばで呼びかけ年間を通じて指導を進めた。学校を子どもたちがリラックスしながらも前向きな気持ちで過ごし、あたたかな心を育てることができるよう場にしていくことが、いじめにせよ不登校にせよ減少させるためには重要であると考えます。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

昨年・一昨年の2年間、算数科を研究教科にすえ、指導力の向上、子どもたちの学力向上に取り組んできた。一昨年度は数と計算領域に限定していたが、昨年はさまざまな領域でより理解や習得が進むことを重視し研究を進めた。5段階の問題解決学習に沿いつつ、子どもたちが自分の考えをかくこと、自力解決だけでなく、ICTを活用した他者参照を取り入れたり、対話の場面を増やしたりしたことで学力向上につながったと考えている。あわせて漢検を用いた漢字学習、百ます計算といった国語算数の基礎学力強化の取組も継続してきた。特に補充学習のひがあわタイムはドリル類の「まちがいなおし」や復習などを進めたことで、参加している子どもにも参加している意義を感じるものとなった。運動やスポーツについてはこれまでの取組を工夫して実施してきたが、「好き」の割合は下がった。校舎改修工事が始まり、教室から階段を下りて来ても、そこから運動場までまだ120m以上ある状況から、高学年の外遊びの人数が減ったことが一昨年から昨年の数値が3%低下した大きな要因と考える。

**【学びを支える教育環境の充実】**

一昨年度まで、教師用PCからの指導者用デジタル教科書の提示や書画カメラのポーズ機能を用いて、子どものノート等の提示に毎日大型テレビを活用してきたが、学習者用端末の活用が毎日ではないため、昨年度は、朝の「心の天気」の入力、すき間時間に行える「らっこたん」を活用したタイピング練習を特に推奨してきた。しかし使用率が80%を超えたのは15.7%にとどまっている。80%の元の数が児童数なので、欠席が多いと、それだけで使用率は下がる。また遅刻等で朝の心の天気の入力が確実でない子どもも多かった。「朝登校して荷物を片付けたら心の天気を入力して、端末は横の手提げ袋に入れる」ことの習慣化を進めたい。

働き方改革については全般によく進んでいるが、急な会議や伝達研修等が持ちにくく、意思統一が図りにくい面がある。また、教職員は交代交代で「今日は遅くまでがんばる」が、それに合わせている管理職においては労働時間が延びがちであることなどの課題が多い。いろいろな点からの精選、スリム化が必要である。

本来であれば今年度末で完成することを想定されていたと思われる校舎改修工事がこの5月にやっと開始し、完成は令和10年1月となった。工事本体に付随して、工事の中、

子どもたちが安全に学校生活を送れるようにするための物的環境の整備や各所の使い方の整備、子どもたちの看護のための人の動きの整備など、目に見えない部分での環境整備を教頭を中心に学校全体として取り組んでいることへの理解を求めたい。工事期間は今後も続くが、この点の環境整備を地道に進めていきたい。

#### 中期目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度（96.6%）以上にする。

##### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1ポイント向上させる。(1ポイント=0.01)
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1ポイント向上させる。(1ポイント=0.01)
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童(生徒)の割合を69.0%以上にする。

##### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50パーセント以上にする。
- 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を89.3%以上にする。  
注)基準1…以下の2つを共に満たす。
  - ①1か月の時間外労働時間が45時間を超えない。
  - ②1年間の時間外労働時間が360時間を超えない。
- 年度末の学校アンケート（保護者対象）で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度（96.6%）以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。  
(1ポイント=0.01)
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。  
(1ポイント=0.01)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度（69.0%）以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度（89.3%）程度にする。
- 年度末の学校アンケート（保護者対象）で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は81.5%で、90%以上に届かず目標未達。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な「思う」と回答する児童の割合は前年度(96.6%)以上(96.9%)となり目標達成。

**総括** 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくない。日々の声掛けやアンケート実施、そしてその結果を引き続き生活指導に生かしていく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比の、同一母集団において経年的な比較は、4・5年生で上回ったものの、6年生は昨年度と同じ結果で目標未達。
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比の、同一母集団において経年的な比較は、4年生で上回ったものの、5・6年生で昨年度より下回ったので目標未達。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(69.0%)より減少(61.6%)し、目標未達。

**総括** 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくない。前年度の結果を分析し、全体的に弱いところを振り返りプリントなどを使って上げていきたい。また、運動面については校内工事中ということもあり運動場の使用が限られるが、児童会活動や委員会活動を通した工夫を取り入れることで改善を図っていく。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数は、年間授業日の36.2%で、50%以上に届かず目標未達。
- 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度(89.3%)以上(96.15%)となり目標達成。
- 年度末の学校アンケート(保護者対象)で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答は91.0%で、90%以上となり目標達成。

**総括** 目標に届かない項目もあった。学習者用端末の活用に関しては、年度の後半部分は50%を超えるようになってきたので、次年度以降も続けていく。超過勤務時間の削減、環境の整備に関しては、目標達成しているので引き続き取り組んでいく。

## 大阪市立東淡路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</li> <li>・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度(96.6%)以上にする。</li> </ul>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を職員全体で共有し、集団指導体制の充実を図る。</li> <li>・いじめの早期発見・解消のために、いじめに関する年間計画(いじめについて考える日・いじめアンケートなど)を作成し、計画に従い実践する。</li> </ul>	B
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のある児童や配慮を要する児童の情報を共有し、対策を講じるための「児童理解連絡会」を月1回開く。</li> <li>・いじめアンケートを学期ごとに年3回実施し、認知したいじめ事案については100%拾い上げ、解決を目指す。</li> </ul>	
<b>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり班の編成をし、活動の活性化を図る。</li> <li>・きょうだい学年や異学年での活動を意図的に取り入れ、異学年交流をすすめる。</li> <li>・福祉学習を行い、思いやりをそだてるとともに、様々な人の生き方に学ぶ。</li> </ul>	B
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり班活動(朝の集会、全校遠足、スポーツ集会)を年間10回以上実施する。</li> <li>・他学年との交流を含めた学習を各学年とも年1回以上行う。</li> <li>・4年で車いす、5年で盲導犬、アイマスクに関する福祉体験学習を行う。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①・月1回の「児童理解連絡会」において、要配慮児童についての情報を共有することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケート結果を受けて、児童に聞き取りをし、対応できた。</li> </ul> ②・たてわり班活動は合計して年間10回以上実施できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年において異学年交流が活発に行われ、児童同士が学校生活で友好的に関わる姿が見られた。</li> <li>・4年、5年の福祉体験学習においても、計画に沿って学習に取り組むことができた。</li> </ul>	

次年度への改善点

- ①次年度も継続していく。児童の問題行動などで担任や学年だけで解決できる事案や、解決済みの事案に関しても、児童理解連絡会を活用し、次年度以降のために細かなことも共有していく。
- ②次年度も継続して取り組む。各学年の交流内容について来年度の参考にできるように、4月職員会議案件の児童会活動計画に今年度の各学年の交流内容を記載しておく。

(様式2)

## 大阪市立東淡路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(1ポイント=0.01)</li> <li>・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(1ポイント=0.01)</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度(69.0%)以上にする。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語力の基礎となる漢字の習得のため、2学期に校内漢字検定、3学期に1～4年生は校内漢字検定、5・6年生は日本漢字能力検定を実施する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で習う新出漢字を2学期までに終わらせるように計画し、3学期は問題演習に取り組み、合格者の割合を50%以上にする。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人が参加し、主体的で対話的、深い学びのできる授業を工夫する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回程度「ひがあわタイム」を設置し、全教員で放課後補充学習を行う。</li> <li>・全員参加型の研究授業・研究討議会を年3回実施する。またその他の研究授業や校内研修を充実させていく。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかなる体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業間なわとびの日程や内容を工夫して実施する。</li> <li>・児童の運動意欲を高められるような企画を計画して実施する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業間なわとびを年間5日実施する。</li> <li>・運動委員会を中心に、児童の運動意欲を高められるような企画を計画し、年2回以上実施する。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成状況や取組みの進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①・計画通り学習を進め、3学期は問題演習に取り組むことができた。年に2回あることで、1回目に合格できなかった児童も合格を目指して一生懸命取り組むことができた。また保護者へ漢字の学習について発信するひとつの機会にもなった。特別支援学級では、漢字検定合格にむけて4月から短時間学習で取り組むなど、個に応じた指導の工夫ができた。</p>	

- ②・参加している児童に対して十分な教員の人数を確保できていたので、個別指導がしつかりとできた。また担任以外の教員が、学年や児童の様子を共有できる機会ともなった。学年の実態に応じた補充学習を行うことができた。
- ・研究授業、討議会は計画通りに全員参加型で実施でき、校内研修も版画やクレパスなどの実技研修を通して、図画工作科の指導方法を学ぶことができた。また3回の研究授業だけでなく、全学年が研究授業を行い、担任外の教員も学年団に加わって研究を行うことができた。若手はメンター研修として複数回、授業公開を行い、講師先生に指導してもらうことができた。
- ③・業間なわとびが実施されたことで、寒い時期でもなわとびで外遊びする児童が増えた。運動委員会の児童が見本になり、下級生に跳び方を教えたりする様子も見られよかった。
- ・運動委員会が企画するイベントを2回以上実施することができた。児童が意欲的に参加し、楽しそうに活動していた。

#### 次年度への改善点

- ①昨年度よりできるようになったかが分かる一つの指標にもなるため、継続して取り組んでいく。
- ②・児童の参加への意欲喚起の工夫が必要。月に1回としているが、運動会前のひがあわタイムはやめるなど、学校の行事に合わせた柔軟な実施としていく。
- ・研究の視点を明確にして、継続して研究を進めていく。討議会や公開授業の感想などでデジタル化の工夫も考えていく。
- ③行事と被らないように計画し、来年度も継続していく。

## 大阪市立東淡路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</li> <li>第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度(89.3%)程度にする。 注) 基準1…以下の2つを共に満たす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1か月の時間外労働時間が45時間を超えない。</li> <li>② 1年間の時間外労働時間が360時間を超えない。</li> </ul> </li> <li>年度末の学校アンケート(保護者対象)で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答を90%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味・関心を高めるために、一人一台端末を積極的に活用していく。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校活動の中でほぼ毎日、書画カメラ、デジタル教科書、Google Classroom、まなびのポータルなどを効果的に活用する。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事を含めた教育課程や会議等の精選を図るとともに持ち方を工夫する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議の資料を3日以上前にデータで配布する。</li> <li>通知表の芸能教科等の1学期の評定を、2学期とまとめる。</li> <li>家庭訪問の代わりに個人懇談を行い、学級懇談会との選択制にする。</li> <li>出欠連絡と手紙の配布にリーバーやミマモルメといったアプリを活用する。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備委員会を計画的に行い、配慮を要する児童に対応した設備など、安全・清潔で効果的な学習環境を整える。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備委員会を年2回以上行い、環境整備に関する課題を共有化する。</li> <li>防音キャップ設置教室を増やす、教室内に土や砂を上げないなど、安全・清潔で効果的な学習環境を整える。</li> </ul>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①一人一台端末を様々な場面で活用することができた。朝学習や心の天気、デジタル教科書など学校内での活用だけでなく、Navima や Class room での宿題の提出や連絡帳代わりなど、持ち帰りでの活用を増やすことができた。
- ②行事の精選、会議資料の事前配布など効率化が図れた結果、教職員の勤務時間軽減が進んだ。
- ③・防音キャップを設置し、環境を整えることができた。
  - ・工事による危険な箇所は教職員で見守り、安全性を担保することができた。

次年度への改善点

- ①さらに活用の場面を増やすため、デジタル教材に関する校内研修を行っていく。また、学校全体での一人一台端末のルールを明確にしていく。
- ②保護者への連絡について、リーバーを利用されていない方にも声かけをしていく。
- ③・防音キャップが外れている机や椅子もあるため、年度当初に確認する。
  - ・引き続き工事による児童の安全確保を臨機応変に行う。